

【発見！お魚調査隊 2007】

県央県土整備事務所

〈はじめに〉

お魚調査隊は、江川漁業協同組合と地元邑智小学校の協力を得て平成13年度に結成し、平成17年度までに美郷町の中心部を流れる早水川に設置した魚道の効果を検証するための追跡調査を行ってきました。

魚道は、早水川の江の川の合流点から約1kmの区間を「魚がのぼれる川づくり」のモデル区間として落差工9箇所にて平成12年度から平成16年度にかけて設置しました。お魚調査隊による調査の結果、魚道を設置する前には見られなかったアユやウグイ等の魚が魚道上流に遡上していることが確認されました。

邑智小学校の子供たちには、この調査隊に参加して川にふれあう機会をもち、身近な川を遊び場や憩いの場として再発見してもらうことができましたので、早水川の魚道の検証のための調査は終了しましたが、今回からは子供たちに川での遊び方や身近な川の環境を知ってもらうため、学校の近くを流れる尻無川の「お魚調査隊2007」を行いました。

〈お魚調査隊〉

今回は、邑智小学校の4年生の子供たち17名と美郷町都賀行公民館の振井館長の指導のもと、6月14日（木）の図工の授業で子供たち自身がペットボトルでしかけをつくり、8月7日（火）8日（水）の二日にわたりしかけを用いてかかった魚の種類などを調べ、尻無川の魚類の生息を調査しました。

このほかに、川の自然体体験としてCODパックテストによる水質検査を行い、子供達に河川環境について考えてもらう時間を設けました。

この模様についてはこのあと写真を中心に紹介します。

図工の授業（6月14日）



振井館長に魚の習性やペットボトルのしかけの仕組み、作り方を教わりながら、しかけをつくる子供たち。



- ・ペットボトルの先端から1/3のところを切りとり、逆さにして蓋をする。
- ・底に穴をあけ、あとは好きな絵を描いて完成。

お魚調査隊初日（8月7日）



川に行くまえに、「川ガキことわざ十ヶ条」で川あそびのしかたを教わる。

魚のえさとなるさなぎの粉と米ぬかをしかけに入れる。



目印のうきを付け、ペットボトルのしかけが流されないようにそのまわりに石をおいて川に沈める。



お魚調査隊二日目（8月8日）



昨日沈めたしかけをそっと引き上げてみる。
なかには、魚がかかっているか心配でなかなか寝つけなかった子も。

ペットボトルのなかに小さな魚を発見！



江の川にすむ魚について模型を使って教えてもらい、今回、捕獲した魚を観察。



今回の調査では、しかけた16個のペットボトルのうち

- ・カワムツ 17匹
 - ・オイカワ 8匹
 - ・ヨシノボリ 2匹
 - ・ハエ 1匹
 - ・ヤリタナゴ 14匹
- 計 42匹

が確認された。

川の自然体体験

県職員の指導のもと4班に分かれて、尻無川の水、や米のとぎ汁など6種類の水を検査。



尻無川の水は、水道水、用水路の水と同じくらいきれいなことがわかった。

子供たちに、魚道をつくる前には見つからなかったアユやウグイなどの魚が、つくった後は落差工の上流で見つかったことを説明。



〈おわりに〉

後日、子供たちから「お魚もとれたし、川に入ってとても楽しかった。」「いろいろな魚をおしえてもらいうれしかった。」「5年の時も教えてください。」というお礼の手紙をいただき、お魚調査隊を通じて子供たちに川で遊ぶ楽しさを知ってもらい、魚がすむきれいな川について学んでもらえたと喜んでいきます。

最後に、都賀行公民館のみなさんと邑智小学校の先生方のおかげで、無事、お魚調査隊を行うことができ大変ありがとうございました。来年も、「発見！お魚調査隊 2008」を行いたいと思いますのでよろしくお願いします。

